

「だれかにとどくかな」

取組の背景・目的

夏休みや冬休みといった長期休業は、多くの子どもにとって楽しい時間である一方、給食がない期間に不安を抱える子どもがいる現実にも、この夏あらためて向き合いました。夏休み中、開館の9時30分から閉館の18時近くまで昼食を取らずに過ごしている様子の子どもの見受けられ、職員の間では「朝から来館しているが、お弁当の持参も一度帰宅する様子もない。食事をしていないのではないか」という懸念が高まりました。こうした状況が連日続いたため、職員は本人にさりげなく状況を確認し、同様の状況にある子どもたちへの支援のあり方を話し合いました。その結果、必要な支援を具体化し、実施していくことを決定しました。

取組の概要

- 「米たべよ」(8月7日) 15名
 - 「米たべよ」(8月14日) 20名
 - 「ポップコーンたべよ」(8月16日) 24名
 - 「米たべよ」(8月19日) 20名
 - 「米たべよ」(8月25日) 25名
 - 「米たべよ」(8月26日) 22名
 - 「ポップコーンたべよ」(8月28日) 20名
 - 「ポップコーンたべよ」(8月30日) 24名
 - 「かき氷たべよ」(9月24日) 67名
 - 「カレーライスたべよ」(10月25日) 19名
 - 「米たべよ」(12月25日) 30名
 - 「クロワッサンたべよ」(1月10日) 40名
- 対象は小中高生（幼児可の時もあり）

【活動の様子】



工夫点・留意点

四者連携（世田谷区28地区で、地域包括ケアシステムの地区展開として、まちづくりセンター、あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）、社会福祉協議会地区事務局、児童館の四者が連携をして地区の福祉課題の解決に向けて「参加と協働による地域づくり」に取り組み）で状況を共有し、世田谷区社会福祉協議会が行う「フードパントリー」（子ども食堂や食料の支援を必要とする近隣の子どもたちに無料で食品を配布する活動）から食品の提供を受けました。提供いただいた食材は、特定の子が周囲から分からないよう配慮し、来館している子どもたち全体に呼びかけてイベントとして実施しました。

また、夏休み後には児童館の地域協力者に対し、夏休み中の子どもたちの様子とともにこの取り組みを紹介し、地域に状況を知ってもらう機会を設けました。

取組の効果

夏休み、週末、冬休みに不定期開催した食の支援活動は、小学校低学年から中学生まで幅広く好評で（現時点で高校生の参加はなし）、子どもたちや地域からの発信によって認知が着実に広がりました。物価高の中でも世田谷区社会福祉協議会から食材提供を受けながら、フードロス削減にも効果がありました。実施を全体呼びかけたことで、職員が把握しきれていなかった「食事に困る子」や「不安を抱える子」への支援につながり、確かな手応えを得ています。

この取り組みは、子どもたちへの直接的な食の支援にとどまらず、保護者の食費負担や心理的負担の軽減にも効果が見込まれます。地域と子どもたちのつながりが児童館を軸に密に育まれ、食の支援をきっかけに職員と子どもたちの何気ない会話が増えて関係構築の一助となっています。

課題・今後の展開

今後の課題は児童館を利用したことのない困っていても支援が届かないこと、真に困っている子を見つけにくいこと、そして保護者や子ども自身が困っているという声を上げづらいことです。また学校などとの連携を進めるうえでは個人情報保護の壁もあります。こうした状況の中でも、児童館の特色を活かし、子どもや地域からの地道な発信で活動の認知を広げて、少しでも多くの子どもたちにこの支援を届けていきます。特に、保護者や子どもが声を上げづらい課題には、児童館の強みでもある日常的な関係性の構築に丁寧に取り組むことが重要です。今後も、より多くの子どもたちに楽しく、安心して児童館で過ごせるよう、長期休業期間を中心にこの取り組みを継続していきます。